

## 震度計 全国一斉点検

### 気象庁方針 不正確なら使用中止も

地震の際の震度観測に誤りが相次いでいる問題を受け、気象庁は10日、全国約4200か所の震度計を一斉点検する方針を明らかにした。設置環境が悪かったり、計器が老朽化したりしていることが判明した場合は、使用を中止する。結果によ

っては、全国の震度計の数が観測されたが、同庁が調べたところ、実際には大きな揺れではなかったことが判明。3か月後には「震度不明」と訂正した。同庁によれば震度計の設置場所が斜面に近く、地盤も弱かったことが原因という。

同庁では震度計を設置環境

境によってAとEと5段階評価しており、同町の震度計は上から2番目のB評価で「問題のない設置環境とされていた。全国の約6割の震度計はBとE評価を受けており、同庁は「正確な震度を測定できない震度計は相当数ある」とみている。

#### 地震被害の解説表 気象庁が見直し案

気象庁は10日、地震の震度ごとの被害状況などを示す解説表について、見直し

案を公表した。

建物の被害については木造、鉄筋コンクリート共に、耐震性を建築年代によって3段階に分け、震度ごとに目安となる壊れ方を図示した。また、屋内の状況にエレベーターの記載を加え、震度4で「かなりのものが

停止する」となどと表記した。ガスや水道管などライフライン(生活物資供給路)の被害の記述は、同じ震度でも被害に違いがあるとして、解説表から外した。

解説表は、各震度でどんな被害や揺れ方が生じるかを具体的に示したものの。